

牛海綿状脳症(BSE : Bovine Spongiform Encephalopathy)

BSE は牛の脳組織が破壊されてスポンジ状となり、起立不能などの症状を起こして死に至る牛の病気です。以前「狂牛病」の俗称で有名になりました。1986年に英国で第1例目が発見され、その後他の国からの報告が続き、日本では平成13(2001)年に第1例が報告されました。BSEは伝達性海綿状脳症(TSE : Transmissible Spongiform Encephalopathy)と呼ばれる病気の1つで、羊・ミンク・猫・鹿・ヒトでも同様の病気が見られます。

【病原体】 異常化したプリオンと考えられています。プリオンとは元々は神経細胞表面にある蛋白質です。ところが何らかの原因で異常プリオンができると、正常プリオンが次々と異常プリオンに変えられてしまいます。その結果、大量の異常プリオンが蓄積して脳細胞が破壊されてしまいます。異常プリオンは蛋白分解酵素でも分解されにくく、加熱調理でも不活化しないという特徴があります。

【臨床症状】 潜伏期は3~7年程度です。神経過敏・食欲減退・麻痺・起立不能などで発症し、2週間から6ヶ月で死に至ります。

【感染経路】 異常プリオンに汚染された肉骨粉(食肉処理過程で得られる内臓や骨などから製造される飼料原料)を含む飼料による経口感染と考えられています。TSEに感染した羊や牛が肉骨粉の原料に含まれていたのではないかと考えられています。

【新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)】 ヒトではクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)という同様の病気が以前から知られていました。ところが従来のCJDに比して若年で発症し、死亡までの平均期間が13ヶ月と長く、脳波のパターンが違うvCJDが1996年に報告されました。日本では平成16(2004)年に死亡した患者さんが、vCJDの第1例として確定されました。このvCJDとBSEの関連が疑われています。直接的な証明はされていませんが、動物試験では関連を示唆する結果が蓄積されてきています。

【BSE対策】 肉骨粉を家畜の飼料としない事が第1です。その他の日本の対策は

- ① 特定危険部位とされる牛の頭部(舌・頬肉を除く)・脊髄・回腸遠位部(盲腸との接続部から2メートル)の焼却。
- ② 月齢21ヶ月以上で食用として処理される全ての国内牛のBSE検査。
- ③ BSE発生国からの牛肉等の輸入禁止。
- ④ 特定危険部位の輸入禁止。等です。

なお、筋肉は特定危険部位ではなく安全とされています。また乳製品も安全と考えられています。

御意見・御質問などは石巻保健所健康対策班までお願いします。 電話 : 0225-95-1430 FAX : 0225-94-7104

もっと詳しく知りたい場合は、保健環境センターHP(<http://www.pref.miyagi.jp/hokans/>)を参照してください。